

2016年11月10日

関係各位

＜東海テレビ かわら版＞

**第48回東海テレビ文化賞
山本尚氏ら
3名と1団体に決定！**

紹介番組：11月16日(水)午前11時00分から放送

(顕彰式は15日(火)午前10時30分～東海テレビにて)

東海テレビ放送は、第48回東海テレビ文化賞の顕彰者を決定しました。

同賞は、昭和43年の東海テレビ開局10周年に制定され、東海地方に在住または関係が深く、多年にわたり社会、文化、学術、産業などの各分野で功績のあった人や団体に贈られます。

顕彰式は11月15日(火)午前10時30分から東海テレビ放送本社(名古屋市中区東桜1丁目14-27)で行われます。

また、顕彰者のプロフィールを紹介する報道特別番組「平成28年東海テレビ文化賞～道一筋に～」は、11月16日(水)午前11時00分から同11時25分まで放送されます。

顕彰者の経歴と受賞理由は次の通りです。

第48回 東海テレビ文化賞顕彰者

<伝統工芸分野>

あんどう ひでたけ
安藤 日出武 (78) [岐阜県]

陶芸家 岐阜県重要無形文化財保持者

<黄瀬戸の創作で美濃陶芸界の発展に貢献>

<芸術分野>

まつおか れいこ
松岡 伶子 (83) [愛知県]

洋舞家 日本バレエ協会中部支部長

<地元のバレエ振興に多大な貢献・育成に尽力>

<学術分野>

やまもと ひさし
山本 尚 (73) [愛知県]

有機化学者 中部大学教授

<有機化合物を合成する際に必要な応用範囲の広い触媒を開発>

<社会分野>

アトリエ・エレマン・プレザン (団体) [三重県]

ダウン症の人たちのためのプライベートアトリエ

<ダウン症の人たちの芸術創作活動をサポートし、国内外に発信>

あんどう ひ で たけ
安藤 日出武

昭和13年1月2日生（78） 岐阜県

陶芸家 日本工芸会正会員
多治見市無形文化財保持者
岐阜県重要無形文化財保持者

<黄瀬戸の創作で美濃陶芸界の発展に貢献>

岐阜県多治見市の陶芸家。全国的に陶芸展を開催、広く美濃の陶芸を紹介し陶磁器文化の向上に尽力した。この間、桃山古陶の可児市久々利の山中を歩き、窯跡で見つけた陶片から土の使い方、焼き方を独自に習得。焼物の路には完成は無いと50年余の長きにわたり数多くの陶芸家の中で存在感のある格調高い焼物を製作。

昭和42年美濃陶芸協会理事に就任、昭和49年、日本工芸会正会員となり、可児市久々利に穴窯を築き、伝統に基づいた技法で黄瀬戸・志野などを始め陶芸作品制作の路を追求。また後進の指導、育成には並々ならぬ努力をされ、多くの若手作家からもその人柄を慕われている。

平成2年に幸兵衛賞を受賞など多数受賞。平成15年には岐阜県重要無形文化財保持者に認定。今年春には文化財保護功労で旭日双光章を受章するなど、伝統工芸の保存普及、地域文化発展に多大な貢献をした。

<略歴>

- 平成 2年 第8回幸兵衛賞
- 平成 4年 多治見市文化芸術功労表彰
- 平成 5年 美濃陶芸永年保存作品に「黄瀬戸大壺」が指定される
- 平成10年 第5回美濃陶芸庄六賞茶碗展「黄瀬戸・茶碗」にて庄六賞
- 平成14年 岐阜新聞大賞文化賞
- 平成15年 岐阜県無形文化財保持者に認定
- 平成23年 岐阜県文化功労者表彰
- 平成25年 岐阜県各界功労者表彰
- 平成28年 旭日双光章

まつおか れいこ
松岡 伶子

昭和8年2月25日生(83) 愛知県

洋舞家 バレエ団代表

日本バレエ協会中部支部長

名古屋市洋舞家協議会副会長

愛知児童青少年舞台芸術協会代表理事

<地元のバレエ振興に多大な貢献・育成に尽力>

名古屋市出身。高校卒業後、東京の谷桃子バレエ団に入り、ソリストとして活躍する。その傍ら、昭和27年に、地元名古屋にバレエ研究所を設立、その後松岡伶子バレエ団に発展させ、昭和31年(1956)に第1回公演を開催した。以来、60年間毎年公演を開催し続けている。自らバレリーナ、振付師、演出家として数多くの作品を上演。

国内のみならず、中国や旧ソ連など海外でも度々公演。また、次代を担うダンサーの育成にも力を注ぎ、国際コンクールで多くの門下生を上位入賞に導き、劇団四季、宝塚歌劇団など多方面にも多くの人材を輩出。現在、東海3県に30の付属スタジオ、教室がある。

一昨年6月、日本バレエ協会中部支部長に就任。同支部は昨年、創立50周年を迎え、今年2月には中部地区の多くのバレエ団が松岡支部長のもとに結集し、創立50周年記念「白鳥の湖」全幕公演を開催して大成功に導き、この地方のバレエの質の高さを内外に示した。さらに2年後の2018年には、中部支部として初めて現代舞踊の要素を取り入れたコンテンポラリーダンス公演を企画するなど意気盛んである。

この地で60年余の長きにわたりバレエ界を牽引し、その発展に大きな役割を果たしてきた。名古屋市民芸術祭賞、地域文化功労者文部科学大臣表彰など多数受賞。その指導力は高く評価されている。

<略歴>

- 昭和54年 都市文化奨励賞
- 58年 名古屋演劇ペンクラブ賞
- 59年 愛知県芸術選奨文化賞
- 平成5年 名古屋市民芸術祭賞
- 13年 名古屋市芸術特賞
- 18年 愛知県教育文化功労者賞
- 19年 地方文化功労文部科学大臣表彰
- ※この他、優秀指導者賞多数受賞

やまもと ひさし
山本 尚

昭和18年7月16日生(73) 愛知県

有機化学者 日本化学会会長
シカゴ大学名誉教授
名古屋大学名誉教授
中部大学教授
分子性触媒研究センター長

<有機化合物を合成する際に必要な応用範囲の広い触媒を開発>

日本の有機化学の第一人者。兵庫県神戸市出身。

物質同士の反応を活性化する触媒の研究に取り組み、「キラル・ルイス酸触媒」の研究を1980年代初頭に世界に先駆けて提案。その有用性を実証し、有機合成化学における「分子性酸触媒」という新分野を築いた。目的の化合物を選択的に合成できる画期的な技術で応用範囲が広く、現在、医薬品や工業材料など幅広い分野に活用されている。

今年5月には日本化学会会長に就任し、日本の化学分野の発展や後進の育成にも尽力している。

また、これまでの業績に対し、有機化学の分野で最も権威がある「ロジャー・アダムス賞」受賞が決まった。日本人では2001年ノーベル化学賞を受賞した野依氏に次いで二人目。授賞式はアメリカで来年4月に行われる。同賞は、米国化学会が1959年から2年に一度選出。これまで29人の受賞者のうち11人がノーベル賞を受賞している。

<略歴>

昭和42年 京都大学工学部工業化学科卒業
46年 ハーバード大学化学科大学院博士課程修了
63年 日本IBM科学賞
平成4年 中日文化賞
7年 日本化学会賞
14年 紫綬褒章受章
18年 テトラヘドロン賞(英国)
19年 フンボルト賞(ドイツ)、日本学士院賞
23年 野依賞
24年 藤原賞
29年 ロジャー・アダムス賞(予定)

アトリエ・エレマン・プレザン 平成2年設立（団体） 三重県

＜ダウン症の人たちの芸術創作活動をサポートし、作品を国内外に発信＞

「アトリエ・エレマン・プレザン」は、ダウン症の人たちを中心とした芸術創作活動をサポートするプライベートアトリエ。

平成2年、三重県大王町の伊勢志摩国定公園のなかに、画家の佐藤肇さん（70）と佐藤敬子さん（68）夫妻により設立。

「エレマン・プレザン」とは、フランス語で「現代の要素」という意味で、今この時代において、アトリエが重要な構成要素でありたいという願いが込められている。ダウン症の人たちが生み出す、明るく調和に満ちた独特の世界観は、佐藤夫妻、フランスのアール・ブリュット・コレクション元副館長ジュヌヴィエーヴ・ルーラン氏、三重県立美術館の元館長酒井哲朗氏により、「アール・イマキュレ（無垢の芸術）」と命名される。

現在は三重と東京でダウン症の人たちを中心とした絵画制作が行われ、国内外で精力的に展覧会を開催。三重のアトリエを拠点として、ダウン症の人たちによる「固有の文化」を発信する芸術家村というべき「ダウンズタウン」設立の計画が始まっている。榊原記念病院（作品150点）、聖路加国際病院、東京大学、日本IBMなどに常設展示されている。

＜略歴＞

- 平成 2年 三重県大王町に、アトリエ・エレマン・プレザン開設
- 5年 東京にアトリエ・エレマン・プレザン東京開設
- 平成13年 ソロプチミスト日本財団「社会ボランティア賞」受賞
画文集「無垢のことば」が里文出版「装丁優秀賞」受賞

＜主な展覧会＞

- 平成 5年 「5人の不思議な絵画展」 / 三重
- 9年 「無垢なる魂 アトリエ・エレマン・プレザンの作家たち」展
/ 川崎市市民ミュージアム
- 11年 「芸術と医学」展 / 経団連会館
- 11年 「無垢の芸術 アトリエ・エレマン・プレザンに集う17人の作家たち」展
/ 三重県立美術館
- 「インターナショナル・アウトサイダーアート」展 / フランス
- 17年 「アトリエ・エレマン・プレザンの作家たちの絵画展」 / 東京 永井画廊
- 23年 「色彩が動くとき」 / フランス文化会館、ブタペスト、ハンガリー
「無垢の芸術家たち」 / 葦崎大村美術館
- 25年 「アトリエ・エレマン・プレザンの宝もの」 / 三重県立図書館
- 26年 「芸術としての楽園」展 / 東京都美術館